

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	両郷地区 (大輪・川田地区)	令和3年3月25日	令和4年2月10日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	114.77 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	95.94 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	27.08 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	14.48 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	24 ha
(備考)	

## 2 対象地区の課題

<p>大輪地区については、沢水があるため、深刻な水不足に陥ることはないが、山間部は日照が悪く、排水が良くない。獣害（イノシシ）も進行しており、電気柵で対応しているが、全面ではないため万全ではない。</p> <p>川田地区については、水利を一部ポンプアップで対応している。若い耕作者は園芸作物に行く傾向があり、稲作の今後が懸念される。</p> <p>地区全体的に、高齢化、後継者不足が深刻であり、10年後以降が不安である。農地バンクを利用した貸借も条件が厳しくて難しい。担い手としては、30a以上ないと借り受けが難しい。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>地区全体が多面的機能支払への対象エリアとなっており、非農家も活動に積極的に参加し地域のまとまりが強い。それにより農地は保全されているので、今後も活動を継続していく。また、大輪・川田間及び川田・中野内間など、近隣からの入作も引き続き継続していく。</p>
<p>地区全体としては、農地の大半が土地改良済であるが、形状の良い農地ばかりではなく、集約化も進んではいない。今後は、小規模での基盤整備を検討しながら、畦畔除去や農地交換等で集積・集約化を進めていく。</p>
<p>大輪地区では4名が今後期待される担い手であり、川田地区では2名の担い手が期待される。また、地区外からの担い手1名も期待される。</p>

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p><b>多面的機能支払への取組方針</b></p> <p>耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ形成及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。</p>
<p><b>担い手の受け入れに関する方針</b></p> <p>土地改良済の農地を中心に、地区内の貸借を循環させ、賄えない場合は、地区外からの担い手への受け入れを検討していく。</p>